

# すみれ乳児院だより87号

2023年1月1日発行

大阪市旭区新森7丁目8-16

発行責任者 院長 北口美弥子



新年あけましておめでとうございます。

すみれ乳児院は1972年に大阪市城東区に開設し、その後2017年度に現在の旭区に移転しました。半世紀の歴史を積み重ねて昨年度は開設50周年となり、心新たに新年を迎えました。

乳児院には「子どもの命を守り・次へとつなぐ」という大きな役割があります。当院には生後間もない新生児が来ることも珍しくありません。大切な命をしっかりと受け止め、安全で安心な環境を整えながら養育していきます。私たちは養育をする上で「記憶に残らない育ちをつなげる」という事を大切にしています。「ファーストシューズ」もその一つです。初めて子どもがはく「靴」に皆さんはどんな思いを込めて準備されるでしょうか。すみれ乳児院では保護者の方に準備して頂いたり、当院で準備させて頂いています。掌に乗るほどの小さな靴には「大きくなったね」「自分の足

でしっかりと歩んでね」といろいろな思いが込められています。子どもたちが大きくなり保護者のところに戻るときや、次への生活の場に移るときにお渡しするようにしています。又大きくなって里帰りしてくれた時に見てもらえるよう写真におさめて保管もしています。記憶に残らないかもしれませんがその子が「ここで沢山の大人やお友達と一緒に暮らしていたんだ」と感じてもらえる一つとなればと思います。

今、世界を見ましてもまだまだ紛争が続き、幼い子どもたちの命と安全が脅かされています。世界の平和を願うとともに誰もが「生まれてきてよかった」と思える社会を皆様と共に作っていきたいと思います。

本年もすみれ乳児院を支えて下さっている多くの皆様に感謝し、さらにその輪が広がるよう取り組んで参りたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

すみれ乳児院 院長 北口美弥子



# 子どもたちの様子



ももいろグループでは7ヶ月～3歳5ヶ月の子どもたちが一緒に生活をしています。異年齢での生活では、年上のお兄ちゃんお姉ちゃんが年下の子のお世話をする姿が見られます。しかし、年上の子が年下の子のお世話をしたい気持ちがあってもどう関わっていいのか分からず泣かせてしまうことも度々あります。そんな時は職員が「お世話をしてあげたい」という子どもの気持ちに寄り添いながら、どう関わればいいのか一緒に行うようにしています。一緒に行うことで少しずつ出来ることも増えていき、喜んでくれる姿を見て「またやってあげたい」と何度もお世話をしてくれています。

また、年下の子が泣いていると近づいていき頭をそっと撫でてあげたり、「だいじょうぶ？」と声をかけてあげたりと、とても優しい姿も多く見られます。年下の子たちは、そんなお兄ちゃんやお姉ちゃんのすることに憧れを持って年上の子がやっていることを「自分もやってみよう」と様々なことにチャレンジしてみようとしています。トイレトレーニングをしている子を見て同じようにしてみたいと興味を持ちトイレに座っ

てみたり、朝の着替えをしている姿を見て同じようにしてみたりと、一緒に生活をしていく中で年上の子たちから様々なことを学んで自分の力にしていっています。しかしすぐに出来るようになるわけではないので職員と一緒に援助しながら「できた」の喜びを共に共感し、もっと意欲的にできるように心がけています。

このように異年齢の子どもたちの生活ではお互いに刺激し合って成長していっています。時にはトラブルになりケンカをしてしまう時もありますが、ほんの数分後には一緒に笑い合っている仲の良い、ももいろグループの子どもたちです。



ももいろグループ 大西

## 里帰り 養育担当者の想い

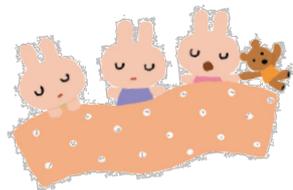
このすみれ乳児院だより第44号に、ある子の巣立ちにむけたメッセージを載せました。時を経て、今年その彼女が里帰り訪問してくれました。ぷくぷくとしたほっぺはスツとしていましたが、面影は残しつつ、素敵なお嬢さんに成長されていました。彼女とは数年前にすでに再会は果たしており、どんな赤ちゃんだったか機会に触れて伝えてきました。けれどもいかにお互いが相手のことを大切に想い合っていたかと話すのは気恥ずかしく、ふれられずにいました。

しかし里帰りですら私以外の職員から赤ちゃんのころのエピソードとともに、養育担当であった私との関係も語られました。その話から「私は確かにここにいた」だけでなく、愛し愛される関係の眼差しを受け、生を育ててきたのだと感じてもらえていたら嬉しいです。

このように自分の記憶に残っていなくとも、さまざまな人と出会い、大切に想い合う心のやり取りをしながら生きてきて、今がある。そんな自分を唯一無二の大切な存在であると思ってもらいたい。里帰りでの経験が、そんなきっかけのひとつになれば…と願っています。

家庭支援専門相談員 原田





# すみれ乳児院のいちにち



6:00

おはよう  
朝ごはん  
あそび・散歩  
ごはん  
おひるね  
おやつ  
あそび・沐浴  
(ベビー)

夕ごはん

20:00

おふろ  
おやすみ

子どもたちが自分で選択して要求し、応えてもらうといった、子どもたち一人ひとりが主体となれるように生活をしています。朝食の場面では、一人ずつ「カリカリにパン焼いて」「いちごジャム塗って」とその子の好みを聞いて応えます。

遊び・活動の時間では、天気の良い日には散歩に行くことが多いですが、院内でもホールや屋上、その他にも子どもたちが楽しめる場所がいくつかあるため、まずはその日の子どもたちのやりたいことを聞いてから活動を行っています。

一日の流れは特に大きく変化はありませんが、季節の行事やイベント、楽しい食事の取り組みがあります。

お正月・ひなまつり・夏まつり・クリスマス会・園外保育・お食い初め・うどん大会・お買い物ごっこ  
などなど



## 七五三詣

2022.11.14

毎年城東区にある関目神社に行き、数えて3歳になる子どもたちの健やかな成長と幸福を祈願して七五三のお祝いをします。何日も前から「かしこみ行くねん」と楽しみにしている子どもたち。当日はスーツやワンピースに着替え少し緊張気味でしたが、神主さんに名前を呼ばれ大きな声で「はい!」と返事をしている姿は私たち職員が思っているよりも、ずっとずっとお兄ちゃん・お姉ちゃんでした。まだまだ小さく幼い子どもたちだと思っただけでしたが、頼もしく立派に成長している姿に感動した瞬間でした。帰院後はケーキでお祝いし、袴や着物でおめかしをして記念撮影とお披露目をしました。着慣れない袴や着物にソワソワ

しながらも「ほくお兄ちゃんやから!」とシャキッと着こなし、たくさん「かっこいい!」「かわいい!」と言われると、照れながらも凛とした表情がとても誇らしげです。この日の1日が子どもたちの大切な思い出になればと思います。 ももいろグループ 前口



# いただきます～す！

## 麻婆豆腐 (大人2人、子ども2人分)



### 材 料

- ・木綿豆腐……………1丁(400g)
- ・豚ひき肉……………100g～150g
- ・白ねぎ、またはニラ……………200g
- ・ごま油……………大さじ1
- ・水……………500ml
- ・みそ……………大さじ1
- ・砂糖……………小さじ2
- ・しょうゆ……………大さじ1/2
- ・片栗粉……………適量

### 作 り 方

- ①白ねぎはみじん切り(ニラなら0.5cm幅に切る)。木綿豆腐は食べやすいサイズのサイコロ状にする。
- ②フライパンを中火で熱してごま油を引き、白ねぎ・豚ひき肉を炒める。
- ③火が通ったら水を加えてひと煮たちさせ、木綿豆腐を加えて、火を通す。
- ④弱火にして、砂糖、みそを加えて少し煮込む。
- ⑤水溶き片栗粉を入れて混ぜ、とろみをつけて出来上がり。  
※ニラで作る場合は、⑤の前に入れて少し煮込んでください。  
※大人には、ラー油をかけると辛さが出ておいしいです。



栄養士：中村

## 後援会からのお願い

すみれ乳児院が所属する「社会福祉法人 大阪福祉事業財団」は、大阪府下に24の福祉施設を持っています。大阪福祉事業財団後援会では、各施設の増改築や新しい施設づくりなどの事業に協力し、会員相互の交流を深めながら権利としての社会福祉の実現をめざす取り組みを進めています。

後援会では皆様の物心両面にわたるご支援・ご協力を必要としております。

\*個人会員 1口 3,000円

\*団体会員 1口 10,000円

既に入会して頂いている方は、2023年度の更新の手続きを宜しくお願いいたします。

大阪福祉事業財団を応援してくださる方は、すみれ乳児院(06-6958-6066)まで。

- \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*
- これからの3ヵ月の行事予定
- \* 1月 お正月 初詣
  - \* OB会 新年会
  - \* 2月 節分
  - \* 3月 ひなまつり 春のつどい
- \* 保護者の方には後日詳しい日程をお知らせします。
- \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*



### 【編集後記】

あけましておめでとうございます。1年あっという間に過ぎ、ふと子どもたちのアルバムを振り返ると顔つきも1年前に比べすっかりお兄さんお姉さんになっていて成長に驚かされます。おしゃべりが上手になった子、歩けるようになった子、一人一人の成長を見逃さないようにしていきたいです。(近藤)